

# 斜里高校総合学科「知床自然概論」、一年目の様子

斜里高等学校が総合学科となり、新たに生まれ選択科目が「知床自然概論」です。日本有数の貴重な自然であり、かつ、ふるさとの自然でもある知床の自然について学ぶ科目で、昨年4月からスタートしました。知床のなまの自然を素材に、地学や生物の分野でもある、知床の地史や食物、動物について学ぶ科目です。年間68時間の授業ですが斜里高校の先生方に加えて町の学芸員も協力し、24時間分の授業を学芸員が直接受け持っています。また、博物館が所蔵する標本や各種資料が教材として活用されています。そして、野外に出て直接自然を学ぶ授業が多いことも特徴です。今年度の授業を担当しているのは博物館の内田、合地、中川と、4月に役場自然保護係に異動した増田前学芸員の4名です。



岩石の比重を調べる

博物館が担当した授業の様子を紹介します。5月、6月には合地課長が「知床の火山活動」をテーマに、実験を交えながら講義を行いました。火山岩の比重を調べたり、岩石の薄片を作って顕微鏡で観察したりしながら、北海道の形成から知床半島の形成について、また、知床の火山活動などについて学習しました。9月には内田学芸員が知床の植物を担当。樹木の葉や果実を用いて植物の同定（種



斜里川の水鳥を観察

## 斜里高校「知床自然概論」 学習成果発表会

日時 2月15日(水)午後6時～7時  
場所 知床博物館映像展示室

自然概論受講生徒5名が、学習のまとめを発表します。是非多くの皆様の聴講をお願いいたします。

名を明らかにすること)の方法を実習したり、斜里海岸林内へ出かけて実際に秋の野生植物の観察を行いました。11月には中川が鳥類の学習を担当。この時期斜里川に渡来している多くの渡り鳥を、斜里川河口から高校の裏まで移動しながら観察。カモ類やカモメ類の見分け方やどこから来てどこへ行くのか、どんな環境にどの種がいるのか、などを学習。オジロワシやシマフクロウ、オオワシなどの絶滅危惧種の鳥類については、剥製等を使ってその生態や保護上の課題を知り、羽毛標本や骨格標本を使って鳥の体の仕組みも学びました。また、増田前学芸員は知床の哺乳類や斜里川の魚類について、講義や観察実習を担当しました。この後も冬の野外観察やまとめの学習が続きます。普段の授業とは違った体験や実習によって、自然界の興味深い仕組みや奥深さを生徒に伝えることができると考えています。別記の日程で生徒たちによる今年度の学習成果の発表会があります。是非聞きに来てください。(中川 元)



海岸林内で種や果実の観察



哺乳類の生態を知る

発行 斜里町立知床博物館 2006.1.27 改

099-4113北海道斜里郡斜里町本町49  
斜里町立知床博物館内

TEL:0152-23-1256 FAX:0152-23-1257

<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>